指導計画の作成と
保育の展開について（仮称）

文部科学省初等中等教育局
幼児教育調査官　小久保　篤子

文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

指導計画の作成と保育の展開

【現行】

第1章　指導計画作成に当たっての基本的な考え方
1．幼稚園における指導性
2．指導計画の意義
3．小学校の教育課程との接続と指導計画

第2章　指導計画の作成の具体的な手順とポイント
1．指導計画の作成の具体的な手順
2．指導計画の作成のポイント

第3章　指導計画の作成の保育の実際
1．長期と短期の指導計画(実践事例)
2．幼稚園教育（幼児期の教育）と小学校教育との円滑な接続を図る指導計画（実践事例）

第4章　指導計画の評価・改善のポイントと実際
1．指導計画の評価・改善のポイント
2．指導計画の評価・改善(実践事例)

要領改訂を踏まえた充実について検討中

（例）
○幼稚園教育において育みたい資質・能力
及び
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

○カリキュラム・マネジメント

○入園当初(特に満3歳児の入園)の配慮

○幼稚園教育と小学校教育の接続

○教材研究

※　幼稚園の教師を主な対象としているが、幼保連携型認定こども園や保育所でも活用いただきたい

幼稚園教育の基本

「環境を通して行う教育」

環境の中に教育的価値を含ませながら，
幼児が自ら興味や関心をもって環境に取り組み，
試行錯誤を経て，
環境への ふさわしい関わり方を身に付けていくこと
を意図した教育

幼稚園教育の基本

重視する事項

1　幼児は安定した情緒の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な体験を得ていくものであることを考慮して，幼児の主体的な活動を促し，幼児期にふさわしい生活が展開 されるようにすること。

- ○　教師との信頼関係に支えられた生活
- ○　興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活
- ○　友達と十分に関わって展開する生活

2　幼児の自発的な活動としての遊びは,心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して，遊びを通しての指導を中心として，第2章に示すねらいが総合的に達成されるようにすること。

3　幼児の発達は,心身の諸側面が相互に関連し合い,多様な経過をたどって成し遂げられていくものであること，また幼児の生活経験がそれぞれ異なることなどを考慮して，幼児一人一人の特性に応じ，発達の課題に即した指導 を行うようにすること。

幼児教育において育みたい資質・能力の整理

小学校以上

知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等

※下に示す資質・能力は例示であり、遊びを通しての総合的な指導を通じて育成される。

幼児教育

〈環境を通して行う教育〉

知識・技能の基礎
（遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになるのか）

思考力・判断力・表現力等の基礎
（遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか）

・基本的な生活習慣や生活に必要な技能の獲得　・身体感覚の育成
・規則性、法則性、関連性等の発見
・様々な気付き、発見の喜び
・日常生活に必要な言葉の理解
・多様な動きや芸術表現のための基礎的な技能の獲得
等

・試行錯誤、工夫
・予想、予測、比較、分類、確認
・他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさ
・言葉による表現、伝え合い
・振り返り、次への見通し
・自分なりの表現
・表現する喜び 等

遊びを通しての総合的な指導

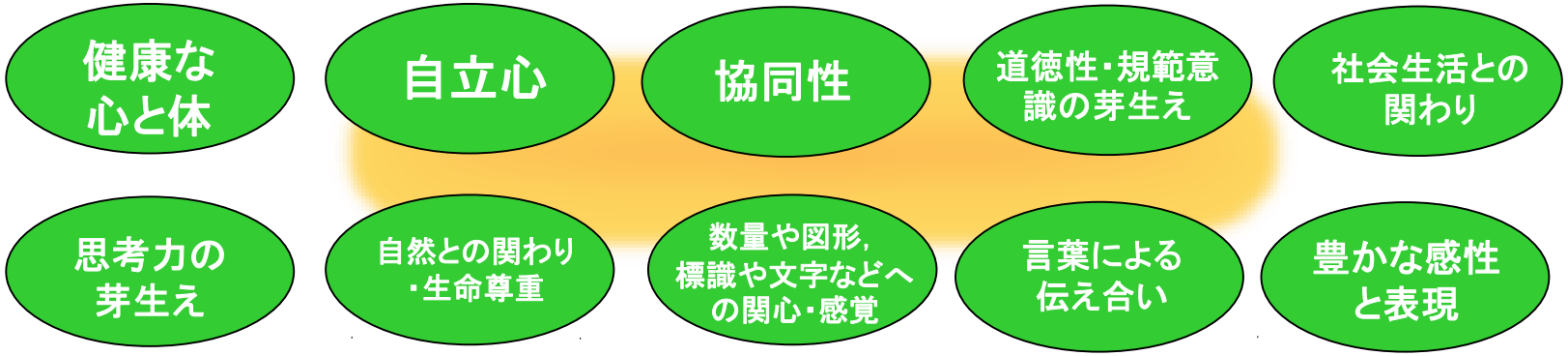
・思いやり　・安定した情緒　・自信
・相手の気持ちの受容　・好奇心、探究心
・葛藤、自分への向き合い、折り合い
・話合い、目的の共有、協力
・色・形・音等の美しさや面白さに対する感覚
・自然現象や社会現象への関心
等

学びに向かう力・人間性等
（心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか）

・三つの円の中で例示される資質・能力は、五つの領域の「ねらい及び内容」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から、主なものを取り出し、便宜的に分けたものである。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

○　５領域のねらい及び内容に基づいて、各幼稚園で、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼稚園教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿であり、特に５歳児後半に見られるようになる姿である。



○　幼稚園の教師は、遊びの中で幼児が発達していく姿を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて捉え、一人一人の発達に必要な体験が得られるような状況をつくったり必要な援助を行ったりするなど、指導を行う際に考慮することが求められる。

○　「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないことに十分留意する必要がある。幼児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての幼児に同じように見られるものではないことに留意する必要がある。

○　５歳児に突然見られるようになるものではないため、５歳児だけでなく、３歳児、４歳児の時期から、幼児が発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意する必要がある。

幼稚園教育要領

第1章　総則

第２ 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

１ 幼稚園においては，生きる力の基礎を育むため，この章の第１に示す幼稚園教育の基本を踏まえ，次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努めるものとする。
（略）

育てたいのは資質・能力（一体的に育む／努める）

２ １に示す資質・能力は，第２章に示すねらい及び内容に基づく活動全体によって育むものである。

この活動を通して、資質・能力は育まれていく

３ 次に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は，第２章に示すねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であり，教師が指導を行う際に考慮するものである。

資質・能力が育っていくと、幼児の姿（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等）としてあらわれてくる。

幼稚園教育要領

第1章　総則
　第3　教育課程の役割と編成等

１ 教育課程の役割
　各幼稚園においては，教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの幼稚園教育要領の示すところに従い，創意工夫を生かし，幼児の心身の発達と幼稚園及び地域の実態に即応した適切な教育課程を編成するものとする。
　また，各幼稚園においては，６に示す全体的な計画にも留意しながら，「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ教育課程を編成すること，教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと，教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して，教育課程に基づき組織的かつ計画的に各幼稚園の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。

２ 各幼稚園の教育目標と教育課程の編成
　教育課程の編成に当たっては，幼稚園教育において育みたい資質・能力を踏まえつつ，各幼稚園の教育目標を明確にするとともに，教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。

カリキュラム・マネジメント

学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上を図る。

教育目標に向かい入園から修了までの期間、どのような道筋をたどって教育をしていくかを明らかにした計画
入園から修了までを通してどのような指導をしなければならないかを、**各領域に示す事項に基づいて**明らかにしていく必要

① 教育課程の編成

✓教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの幼稚園教育要領の示すところに従い，創意工夫を生かし，

幼児の心身の発達と幼稚園及び地域の実態に即応

✓全体的な計画にも留意

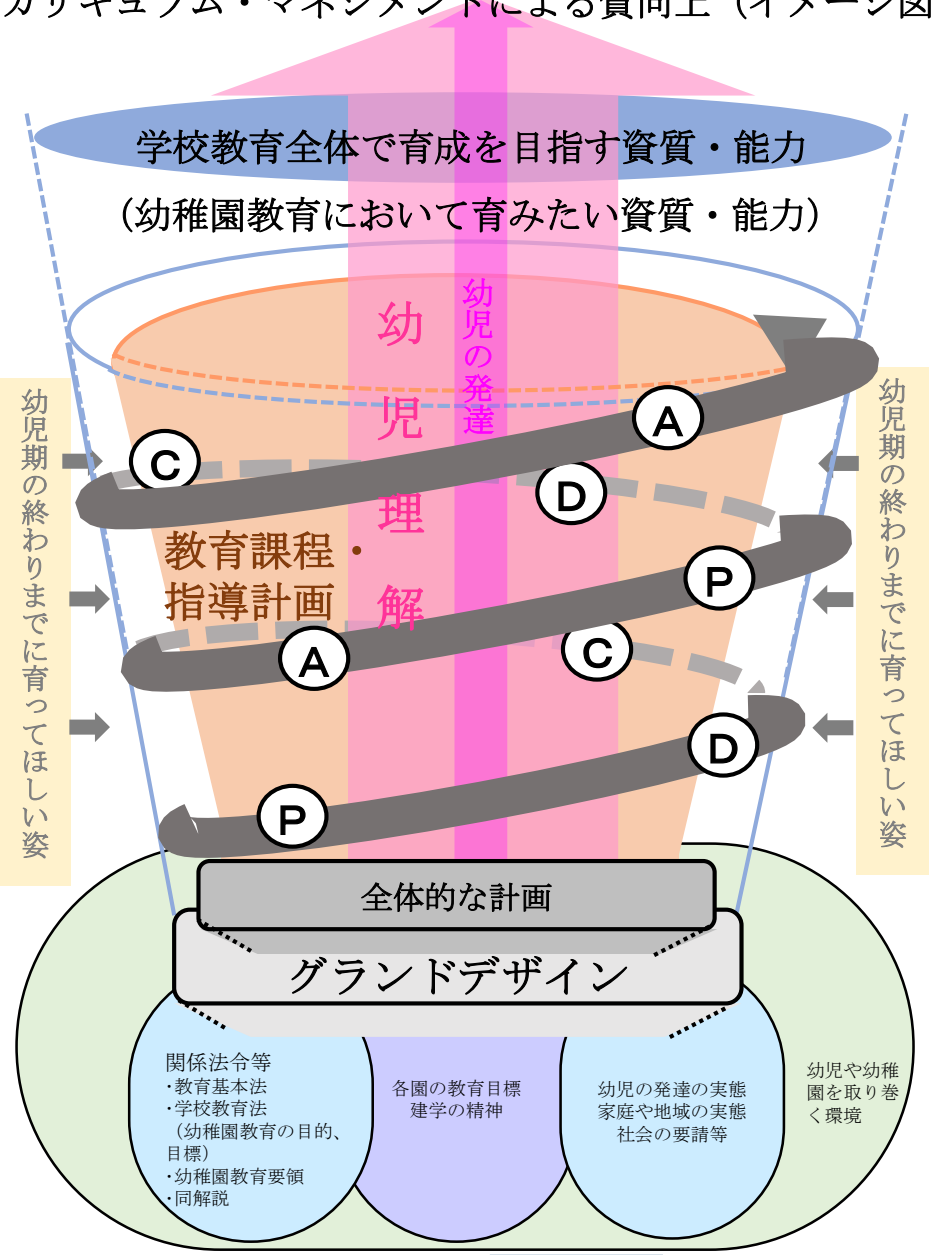
✓「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ

教育課程の編成に当たっては、幼稚園教育において育みたい資質・能力を踏まえつつ、教育目標を明確にする必要

② 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと

③ 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと

カリキュラム・マネジメントによる質向上（イメージ図）



※　教育課程編成上の基本的事項　５領域

幼稚園生活の全体を通して第２章に示すねらいが総合的に達成されるよう、教育課程に係る教育期間や幼児の生活経験や発達の過程などを考慮して具体的なねらいと内容を組織する。

- 本図は幼児理解に基づいたＰＤＣＡサイクルの重要性、教育活動の質が向上し続けていくことを示す。
- 幼児理解に基づいた評価を通して幼児の実態を捉え教育課程の実施状況を評価して、その改善を図る。
- 教育課程や年間指導計画といった大きなサイクルから日々の保育といった小さなサイクルまでが有機的に絡み合って、更に質の高い教育へとつながる。
- 「幼児理解」の周囲に「教育課程・指導計画」がある。これは幼児理解を基に編成、作成の必要性を示したもの。
- 外側に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が取り巻くようにある。これは、幼稚園教育要領における「『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を踏まえ教育課程を編成すること」の「踏まえ」のイメージ。

一人一人の幼児と直接に触れ合いながら、幼児の言動や表情から、その奥に潜む思いや考えなどを理解。これまでの育ちと相互に絡み合って今の育ちとなって「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として現れる。

- 資質・能力が上にあるのは、幼稚園教育を通して資質・能力を育み、小学校教育へとつながっていくことをイメージ。
- 教育課程の編成、教育課程を核とした全体的な計画の作成が重要。
- 各園が教育目標に対する教育方針やその特色等、園経営の概念を家庭や地域と共有する必要。これを、グランドデザインとして示すことも考えられる。

○　幼稚園教育の特徴は、教師があらかじめ一人一人の幼児の発達に必要な経験を見通し、各時期の発達の特性を踏まえつつ、教育課程に沿った綿密な指導計画を立てて継続的な指導を行うところ

○　幼児期にふさわしい生活が展開され、適切な指導が行われるよう、組織的、発展的な指導計画が作成されることが大切

・集団性、意図性、計画性などの学校教育としての特性
・小学校以降の生活や学習の基礎を培うものとしての役割

○　幼児期にふさわしい生活を通して、幼児に「幼稚園教育において育みたい資質・能力」が育まれていくようにすることが重要（「幼稚園教育において育みたい資質・能力」を育成するよう教育課程を編成）

○　カリキュラム・マネジメントの中核は幼児理解

・幼児は自ら発達に必要なものを獲得しようとする力をもつ
・その力を十分に発揮できるような環境の構成が重要
・幼児の中に何が育とうとしているのかなどを踏まえて計画を立て、幼児が興味や関心、必要感に基づいて主体的に活動し、充実感や満足感を味わえるような保育が大切
・幼児理解に基づいた評価を通して幼児の実態を捉え、教育課程の実施状況の評価、改善
・幼児理解に当たっては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭

【グランドデザイン】

- 各園が教育目標に対する教育方針やその特色等、園経営の概念を家庭や地域と共有
- 地域とともにある幼稚園として何を大事にしていくべきかという視点を定め、教育目標や育成を目指す資質・能力、園の特色を示し、教職員や家庭・地域の意識や取組の方向性を共有
- グランドデザインと全体的な計画はその根幹となる考え方は同じ。グランドデザインでは、各園が教育目標に対する教育方針やその特色等、園経営の概念を家庭や地域と共有
- グランドデザインは、教育目標に示す目指す幼児像に向かいどのように育てていくのか、そして教育課程や指導計画にどのように具体化していくのか、園内外の資源をどのように教育活動に活用するのかなど、その園経営の全体像を示したもの
- グランドデザインにより、教職員全員が重点とする進むべき方向を明確に共有し、互いに協働して全園児の健やかな育ちを保障

○年度　Ｂ幼稚園のグランドデザイン（イメージ）

教育目標
- ○　仲良く楽しく遊ぶ子
- ○　健康で明るく、たくましい子
- ○　自分で行い、工夫する子

目指す幼稚園像
- ・幼児らしく、のびのびと豊かに生活できる
- ・保育の質の向上を図り、個の育ちと協同的な学びの場を保障する
- ・家庭・地域と連携し、幼児・保護者・教師が共に育つ

園の教育活動等の基本方針
- ・危機管理に努める
- ・直接的な体験を重視する
- ・自主性を育てる
- ・規範意識を育てる
- ・自己肯定感を大切にする
- ・協同性を育てる
- ・特別支援教育を推進する
- ・家庭や地域、小学校等との連携を進める

本年度の重点
自分に自信をもって行動する幼児の育成
～作ったりかいたりすることを楽しむ中で～
★友達のよさを互いに認め合いながら、自己の力を発揮して生活する幼児
★自分の考えを表し、自分で判断して行動する幼児

- 様々な素材や表現方法に親しんだり友達の刺激を受けたりして、自己の表現を豊かにする
- 先生や友達に親しみを感じて積極的に関わったり、友達の気持ちや考えに触れたりしながら、友達と一緒に活動する喜びを味わう
- 身近な人やもの、出来事と関わる中で、不思議さや面白さ、美しさなど、心を動かす出来事に出会い、感動を表現する喜びを味わう
- 遊びを楽しむ中で、きまりや約束を守ったり、物事をやり遂げようとする気持ちをもったりする。

【全体的な計画】

- 教育課程を中心に、法令等の定めにより学校が策定する各分野の計画（預かり保育の計画、学校保健計画、学校安全計画等）とも関連させ、一体的に教育活動を展開する必要。

  例：①預かり保育の計画は、教育課程に係る教育時間の活動との関連を図る

  ②学校安全計画は、幼児の安全に対する構えをいかに育むかという教育内容とも関連を図る

- 教育課程に示す教育理念や目指す幼児像、幼児の発達の過程、指導内容を念頭に置きながら、一体とした教育活動となるように計画することが大切。

【教育課程の編成において重点とすべき事項】

- 教育目標に向かってねらいや内容を組織的、計画的に示す。幼稚園教育要領に示された５つの領域の「ねらい」や「内容」をそのまま教育課程における具体的なねらいや内容とするのではなく、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連を考慮しながら、幼児の発達の各時期に展開される遊びや生活に応じて適切に具体化したねらいや内容を設定する必要

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて教育課程を編成するとは、どのようなことなのか考える必要。「踏まえる」とは、遊びや生活を通して幼稚園教育において育みたい資質・能力が育まれ、その結果として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のそれぞれの姿が幼児の姿として一体となって見られるようになるという意味であることを十分理解し、総合的に指導すること、さらに、各学年にふさわしい遊びや生活を積み重ねることを通して育まれるようにする必要。

  例：「お店ごっこ」で商品の看板をつくるとき、分からない文字について友達と周りの環境から探す

  →「文字などへの関心・感覚」だけでなく、「自分たちの店に客に来てほしい」「だから、看板が必要。書きたい」という強い思いから生まれてきた姿、友達と一緒に文字を何とか探し出して書こうとする姿には、自ら課題の解決に向かう「自立心」や友達との「協同性」、「思考力の芽生え」等の姿も関連して読み取れる。

- 幼児が自発的に取り組む活動としての遊びの過程には、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のそれぞれにつながる様々な学びの絡み合った姿が見られる。それは、幼稚園教育において育みたい資質・能力である「知識及び技能の基礎」、「思考力・判断力・表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」の３つが繰り返し循環し関連し合う姿でもある。